

来週の「売り物記事」はこれ



2018年8月24日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

沖縄の不条理を撮る

77歳の報道写真家・嬉野京子さんが見た戦争と平和

8月26日(日)



報道写真家の嬉野(うれしの)京子さん(77)は1965年、沖縄で少女が米軍車両にはねられ死亡した事故現場を撮影し、米軍統治下の過酷な生活を本土に伝えました。

以来、沖縄の取材で知られてきましたが、写真家としての原点は、4歳の時に原爆投下翌日の広島市を歩いた経験にありました。



戦後73年の夏、沖縄と広島的光景に突き動かされた嬉野さんの人生をたどります。

女の気持ちをたずねて

サラダぼうる面 同27日(月)

山口市の鮎川節子さん(88)は戦時中、佐賀県の傷痍軍人療養所の看護婦でした。空襲で避難することもありましたが、10代半ばの少女に、入院した軍人たちも気を許して、ほかではいえない本音を漏らしました。

一方、敗戦後は旧満州(現中国東北部)や朝鮮半島から引き揚げてきた女性らの中絶手術に立ち会うという凄惨な体験も。平和の大切さをかみしめます。

この国はどこへ行こうとしているのか 平成最後の夏に……

夕刊特集ワイド 同27日(月)

近代日本政治史研究の第一人者、坂野潤治・東大名誉教授は、最近「我慢がなくなってきた」と言います。多くの後進を育てた「坂野史学」の要諦は、後知恵を排し、保守、中道、革新それぞれの史料を虚心坦懐に読み込んで分析することです。

ところが、「今の保守には、極左と同じくらいの許容度しかないように見えます。山県有朋にしても誰にしても、昔の保守には、なるほどと思わせるものがありました」。太平洋戦争から戦後民主主義の時代を経て、60年安保闘争を経験した歴史学者の目には、2018年の日本が極めて危うく映っています。

政治、経済、外交の閉塞状況から目を背けながら、かつて歩んだ破滅への道に向かっているのではないか。5年間の安倍晋三政権下で拡大してきたナショナリズムや近隣諸国との関係などについてどう捉えるべきかたずねました。

企画 「育児と企業」

経済面 同28日(火)から

人手不足が深刻化する中、女性活躍の重要性がより高まっています。ただ、保育所不足など、女性が子育てをしながら働くことができる環境づくりは十分とは言えません。

各企業は人材確保のために、企業内保育所の整備などに力を入れ始めています。3回の連載企画で、育児との両立支援や男性の育児を促すためのさまざまな企業の取り組みや、課題に迫ります。

縮む日本の先に 安心のために

社会面 同 28 日 (火) から

1961年に国民皆保険・皆年金が確立し、基礎が築かれた社会保障制度は、人口減少社会を迎えて揺らぎ始めています。若い人が高齢者を支えるという従来の構図は既に成り立たなくなり、新たな社会保障の姿が求められています。

一方で、国や制度だけに頼らない地道な取り組みも広がり始めています。医療や介護、子育て、高齢期の就労、福祉、貧困といった現場で安心のために取り組む人々の姿を通じ、縮む日本の先に見える安心のためのヒントを探ります。

児童虐待防止の緊急総合対策

医療・福祉面 同 29 日 (水)

「おねがい ゆるして」。ひらがなの「反省文」を残して、東京都目黒区で当時5歳の船戸結愛ちゃんが虐待され亡くなった事件。これを受け、政府は児童虐待防止の緊急総合対策を打ち出しました。

児童福祉司の増員など緊急対策のほか、虐待の「芽」を早期に見つけて支援に入る体制整備など総合的な支援強化策も盛り込まれています。虐待の通告・相談窓口の一元化などの残された課題と併せて紹介します。

液体ミルクの使い方

くらしナビ面 同 30 日 (木)

厚生労働省は今月、乳児用液体ミルクの国内製造、販売を認め、消費者庁も表示の許可基準を発表しました。熱湯で溶かすなどの手間がかからず長期保存ができるため海外では普及しており、災害時などでの活用が期待されます。

しかし、品質試験が必要で店頭に並ぶのは先になりそう。育児にどう影響するのか、保存の仕方など、家庭で使う際の注意点をまとめました。

増えるキッズ脱毛

くらしナビ面 9月1日 (土)

「7歳からできる」などと子どもの施術が可能だとうたう脱毛サロンや美容皮膚科が話題を呼んでいます。最近の子どもは美容に敏感。脱毛やエステに親しんでいる母親世代も利用を許すようです。値段も手頃で、小学生の間にも利用者は増えています。

なぜ、子どもたちは脱毛に関心を持つのでしょうか。また、体に悪影響はないのか専門家にも取材しました。